

【質問事項とその回答】

Q1. 当院では尿、膿液など LBC のみで MG 染色標本の作成はしていませんが、MG 染色標本用の標本作成方法はオートスメアでしょうか？

A1. 当院ではオートスメアの機器がありません。
このため、引きガラス法やすり合わせ法、パッチン法で MG 標本を作成しております。

Q2. スライドで使用されたギムザ染色像（主に血液腫瘍）は対物 100 倍と推察されますが、実際の尿細胞診で LGUC を診る際の繊細な核網の観察には、対物 100 倍を使用することが多いのでしょうか？対物 40 倍で、核網の観察をするのは難しいのでしょうか？

A2. 尿を含めた細胞診では、対物 100 倍は使用していません。
細胞診では対物 40 倍で十分と思われ、勿論核網の観察も対物 40 倍で十分と思われま
す。また、良性細胞でも LGUC でも HGUC でも、弱拡大（10 倍）での核網の濃さや
N/C 比の大きさなどを総合的に観察しているので、弱拡大での印象が大切と個人的に
は思っております。逆に、骨髓像やリンパ節は対物 100 倍しか使用していません。